

# 寄り道農業

introduction 新しい農業、農業の価値

食べることは、生きるために必要なこと。食糧問題、安全性、就農人口、自給率…食に関することは常に注目され、解決策が求められている。このような状況の中で、若者や企業の農業への参入、IT技術を用いて環境をコントロールする植物工場など新たな仕組み、スタイルが生まれてきている。また農業には作物の生産以外にも様々な価値が認められるようになった。街に住む人が自然に触れるため、高齢者の健康や生きがいとして、食育や情操教育のために自宅や地域の農園で農業に関わる機会が増えている。

concept 街路を耕す

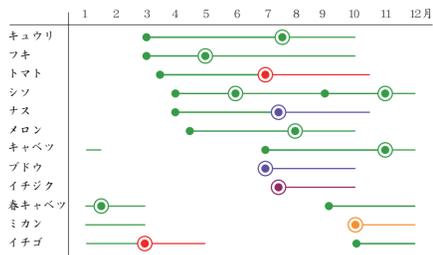
整備された雨水対策の貯水システムを活用し、人々が必ず通る街路を畑とする。都市に住む人々が寄り道をするように気軽に作物を育て、収穫し、食べるという新しい農業のスタイルが生まれる。



Design

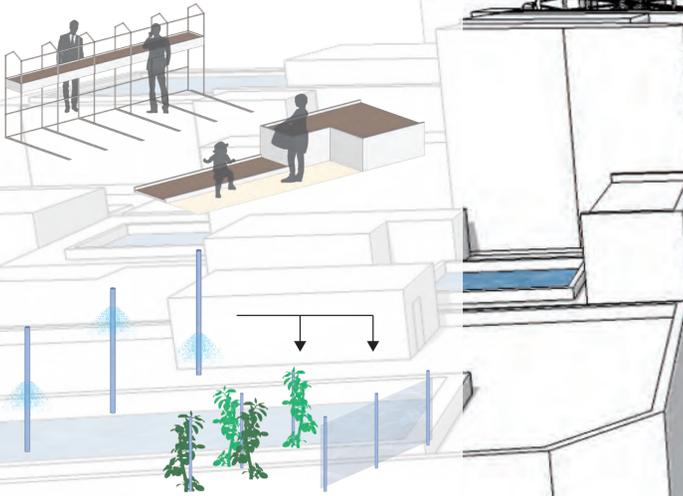
栽培される作物

作物は気候に合わせて栽培・収穫の時期を迎える。変果期で多く生産されている作物を街路で育てることで1年を通して街の中で変化していく風景を見ることができる。



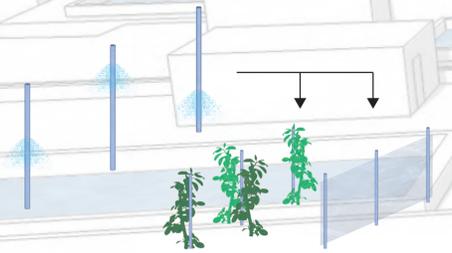
畑のかたち

スーツで立ったまま作業できるように、子供が作物に近づけるように、置かれる場所によって畑の高さを変える。駐輪場や休憩スペースと一体になった畑は日常的に人々に利用される。



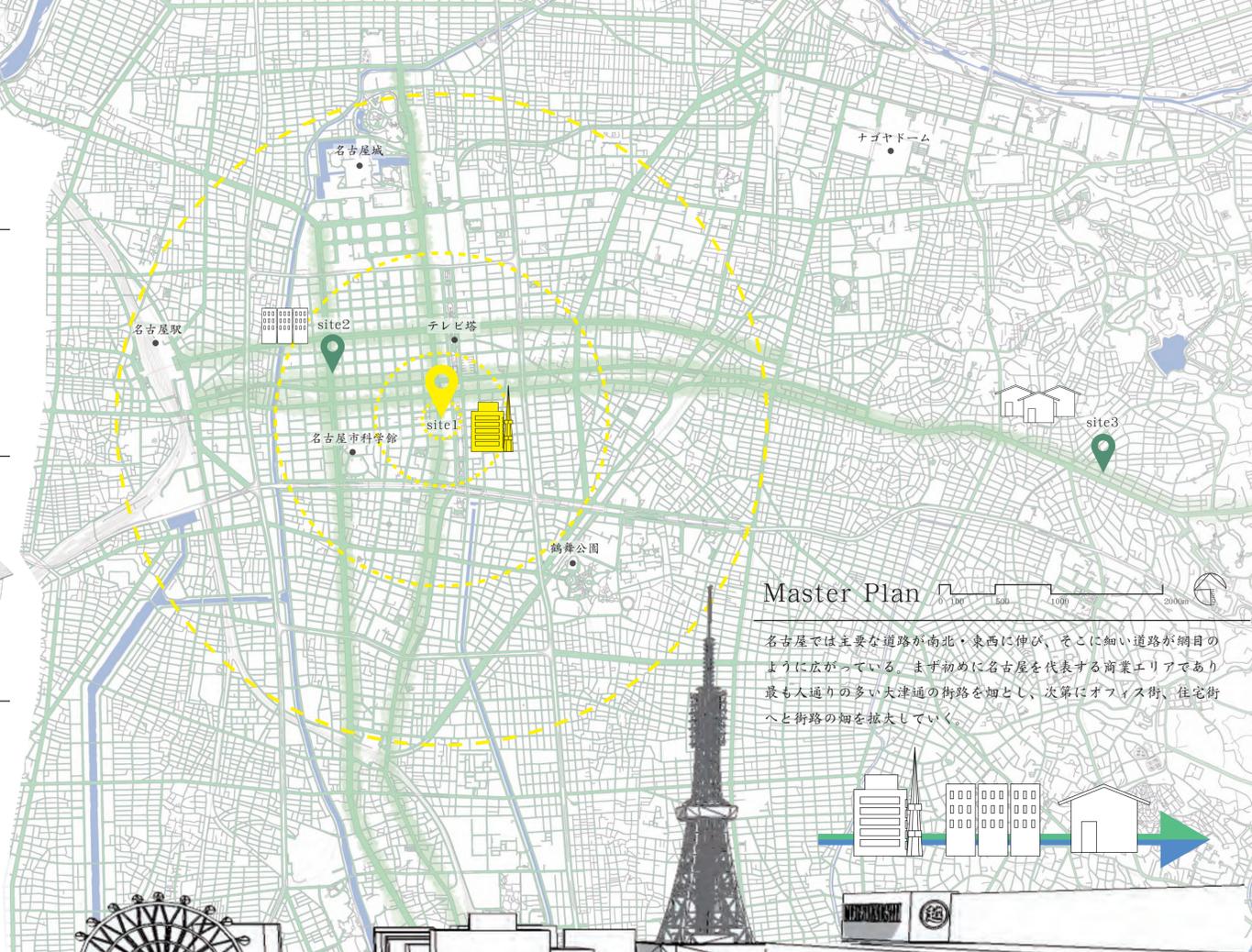
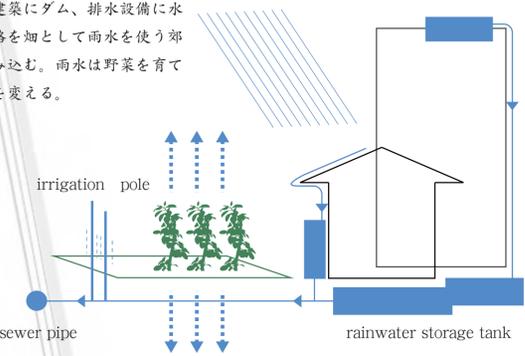
ボールの機能

等間隔で設置されたボールは作物への水やりを容易にする。他にも、植物を安定させる支柱としてまた排気ガスを避けるための壁の一部として機能する。



system 土木の力で成り立つ農業

集中豪雨対策として貯水施設の整備が進められている。これらを利用して建築にダム、排水設備に水路の役割をもたせ、街路を畑として雨水を使う郊外の農業システムを組み込む。雨水は野菜を育て野菜は雨水循環の流れを変える。



Master Plan

名古屋では主要な道路が南北・東西に伸び、そこに細い道路が網目のように広がっている。まず最初に名古屋を代表する商業エリアであり最も人通りの多い大津通の街路を畑とし、次第にオフィス街、住宅街へと街路の畑を拡大していく。



site1 名古屋市中区 大津通 …繁華街

新しい文化を発信し続ける名古屋一の繁華街には、働く人、遊ぶ人、住む人、様々な目的を持った人が訪れる。大通りが歩行者天国になる日には、ここで収穫した作物を使った料理なども楽しめる。人々は道での農業に触れ、その情報は新鮮な野菜とともに他の人、他の地域へと伝えられていく。



site2 名古屋市中区 伏見通 …オフィス街

オフィス街では、多くのビジネスマンが毎日この街路を歩いて職場へ行き、働いている。ちょっとした息抜きに、お昼休みに、帰る前に、街路の畑は目にとまる。自分で収穫した野菜はどこで買うよりも新鮮なお昼ご飯になる。



site3 名古屋市中区 千種区 広小路通 …住宅街

子供や老人の生活の中心である住宅街。畑の世話をするうちに近所の人とのコミュニティができる。収穫した野菜は持ち帰って夕ご飯に、たくさん採れたら近所の人におすそ分け。

